

**日本国外務大臣及びウガンダ共和国外務大臣による  
共同プレス・ステートメント**

河野太郎日本国外務大臣とサム・カハンバ・クテサ・ウガンダ共和国外務大臣は、2018年6月3日から8日までのクテサ大臣の訪日の機会を捉え、会談を行い、幅広い事項についての意見交換を行った。

**I. 長年にわたる友好協力関係**

1. 2015年9月にムセベニ大統領が日本を公式実務訪問した際に発出された日本国とウガンダ共和国の共同声明を想起し、両大臣は、自由、民主主義、法の支配及びグッドガバナンスを含む普遍的な価値に基づき、二国間及び国際場裡における協力を強化するとの願望を再確認した。
2. 河野大臣は、クテサ大臣が2017年春の叙勲で旭日大綬章を受章したことに祝意を表した。クテサ大臣は叙勲に謝意を表した。両大臣は、手を取り合い、長きにわたる友好・協力関係を更に発展させる意図を確認した。
3. クテサ大臣は、開かれ包摂的で透明性の高いフォーラムであるアフリカ開発会議（TICAD）プロセスを通じたアフリカの開発に向けた日本の重要な役割及び貢献に謝意を表明した。河野大臣は、過去5回のTICAD首脳会合へのムセベニ大統領の出席を含め、TICADプロセスへのウガンダの積極的な関与に謝意を表明した。両大臣は、2018年のTICAD閣僚会合及び2019年のTICAD7の成功に向け協力することを確認した。
4. 2017年に二度開かれた「日・ウガンダ官民インフラ会議」及び2018年5月に開かれた「日・アフリカ官民経済フォーラム」の成果を想起し、両大臣は、ビジネス環境の改善を通じウガンダにおける民間部門の投資を促進することの重要性について一致した。この点に関し、日本からウガンダへのより一層の投資を促進するために将来の二国間投資協定の重要性を強調した。
5. 河野大臣は、質の高いインフラの整備及び能力構築を通じたウガンダの「ビジョン2040」を支持する意図を表明した。クテサ大臣は、カンパラにおける送変電システム及びジンジャ県のナイル架橋建設に関する日本の支援の支援を高く評価した。両大臣は、開放性、透明性、経済性及び被援助国の財政的健全性といった国際スタンダードに従った質の高いインフラの推進の重要性を強調した。

6. ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する重要性を認識し、クテサ大臣は、ヘルスケアサービスの提供を向上させるための北部ウガンダ地域中核病院改善計画への日本の支援を高く評価した。河野大臣は、ウガンダにおける生活環境の改善を引き続き支援する日本の意図を表明した。
7. 両大臣は、国造り及び経済発展の礎としての教育と職業訓練の役割について一致した。クテサ大臣は、自動車及び電気産業を含む様々な分野における職業訓練計画の進展に満足を表明した。クテサ大臣はまた、ウガンダの若者23名がアフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）の恩恵を受けていることを評価した。
8. ウガンダにおける農業の高い潜在性を認識し、両大臣は、農作物生産及び農業生産性の向上の重要性を強調した。クテサ大臣は、稲作の分野における日本の貢献に満足を表明した。河野大臣は、日本の経験とノウハウを最大限に活かし、本分野でのウガンダを引き続き支援する日本の意図を改めて表明した。更に、クテサ大臣は、日本の食糧援助について、同援助がウガンダにおける難民の流入の影響の緩和に資するものであることを強調しつつ、謝意を表明した。
9. 両大臣は、人的交流の促進の重要性を再確認した。両大臣は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機会にウガンダのホストタウンとなることとした泉佐野市及び立科町の決定を歓迎した。また、両大臣は、昨年泉佐野市とグル市が友好都市提携を開始したことに満足の意をもって留意した。

## II グローバルな平和と繁栄のためのパートナーシップ

10. 両大臣は、法に基づく自由で開かれた国際秩序が、国際社会の平和、安定及び繁栄の基礎であることを強調した。クテサ大臣は、平和国家としての日本の戦後の貢献を評価するとともに、日本の国際協調主義に基づく「積極的平和主義」へのウガンダの支持を改めて表明した。
11. 河野大臣は、とりわけアフリカ連合ソマリア・ミッション（AMISOM）に対する最大の派兵の貢献を通じたソマリアの安定化、南スーダンの政治プロセスへの積極的な関与及び、140万人を超える難民の受入れに関し、アフリカの平和と安定のためのウガンダによる取組に敬意を表した。

12. クテサ大臣は、ホスト・コミュニティの能力開発を含む、ウガンダの難民に対する日本の支援に対し謝意を表明した。河野大臣は、2017年6月にカンパラで開催された難民連帯サミットにおいて表明した支援を継続する日本の意思を再確認した。クテサ大臣は、国連エンテベ地域支援センター（RSCE）に対する日本の継続的な支援に謝意を表明した。
13. 両大臣は、国連安全保障理事会をより正統性があり、実効的で、代表性が高い、21世紀の国際社会の現実を反映した組織にするため、常任・非常任議席の双方の拡大を含む安保理改革の重要性を再確認した。この観点から、河野大臣は、クテサ大臣が2014年から2015年まで第69回国連総会議長として安保理改革のために力強いリーダーシップを発揮したことに対する謝意を表明した。両大臣はまた、同改革の早期実現に向けた政府間交渉に係る作業に引き続き建設的に取り組む決意を表明した。両大臣は、第72回国連総会会期中に安保理改革を前進させる必要性を強調し、関係諸国間の対話を継続することの重要性を確認した。
14. 両大臣は、北朝鮮をめぐる現在の進展についての国際社会によるこれまでの全ての取組を評価した。両大臣は、朝鮮半島の完全な非核化という共通の目標を確認した。2018年4月下旬の南北首脳会談において発出された「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言文」を歓迎し、6月の米朝首脳会談を通じ、この目標に向けた、北朝鮮による具体的な行動につながるよう強い期待を表明した。両大臣は、全ての国に国連安全保障決議第2397号を含む関連安保理決議の完全な履行を求め、北朝鮮に対してこれらの決議に従って具体的な行動をとるよう求めることへのコミットメントを再確認した。両大臣はまた、北朝鮮に対し、拉致問題の即時解決を求めた。
15. 両大臣は、人間の安全保障の概念に基づきアフリカ連合アジェンダ2063並びに持続可能な開発のための2030アジェンダ及び持続可能な開発目標（SDGs）を実現するために、不拡散、テロ及び暴力過激主義対策、気候変動、防災、ジェンダー簡の平等といった幅広い地球規模課題に対処するにあたっての協力を強化する意図を共有した。
16. 両大臣は、様々な多数国間の枠組みにおける日本とウガンダの緊密な協力を維持する意図を再確認した。
17. 最後に、クテサ大臣は、河野大臣及び日本国政府に対し、同大臣一行に対する今次訪問中の温かい歓迎とおもてなしについての謝意を表明した。

東京、2018年6月4日